

姫路赤十字病院総合診療専門研修プログラム

1. 姫路赤十字病院総合診療専門研修プログラムについて

現在、地域の病院や診療所の医師が、かかりつけ医として播磨姫路地域医療を支えています。

急速な高齢化等を踏まえると、健康にかかわる問題について適切な初期対応等を行う医師が必要で、姫路赤十字病院総合診療専門研修プログラム（以下、本研修 PG）は、総合的な診療能力を有する総合診療専門医養成します。

専攻医は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら、人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する総合診療専門医を目指します。

本研修PGでは、5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行います。

①総合診療専門研修Ⅰ（外来診療、在宅医療中心）

清水赤十字病院、多可赤十字病院

②総合診療専門研修Ⅱ（病棟診療、救急診療中心）

姫路赤十字病院、名古屋第二赤十字病院

③内科 姫路赤十字病院

④小児科 姫路赤十字病院

⑤救急科 京都第一赤十字病院

⑥その他の領域別研修:外科、整形外科、産婦人科、精神科、放射線科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科の研修を行うことが可能です。専攻医の意向を踏まえて決定します。

2. 募集定員 2名

3. 専攻医の採用についてのお問合せ

姫路赤十字病院 研修課 TEL：079-294-2251

e-mail：kensyu@himeji.jrc.or.jp

ホームページ

<http://www.himeji.jrc.or.jp/>

4. 施設群における専門研修コースについて

ローテーション

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	姫路赤十字病院											
	領域	内科											
2年目	施設名	京都第一赤十字病院			清水赤十字病院						姫路赤十字病院		
	領域	救急科			総合診療Ⅰ						小児科		
3年目	施設名	名古屋第二赤十字病院			姫路赤十字病院			多可赤十字病院					
	領域	総合診療Ⅱ			総合診療Ⅱ			総合診療Ⅰ					

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12)カ月		総合診療専門研修Ⅱ (6)カ月	
領域別 研修	内科 (12)カ月	小児科 (3)カ月	救急科 (3)カ月	その他 ()カ月

5. 研修施設の概要

姫路赤十字病院：総合診療専門研修Ⅱ、内科、小児科

<p>医師・専門医数</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 総合診療専門研修指導医 8名 • (プライマリ・ケア認定医 13名) • 総合内科専門医 15名 • 小児科専門医 9名 • 日本整形外科専門医 7名 <p>他に、</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本消化器病学会消化器専門医 8名 • 日本循環器学会循環器専門医 4名 • 日本糖尿病学会専門医 1名 (非常勤専門医延べ4名) • 日本腎臓学会腎臓専門医 1名 • 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名 • 日本血液学会血液専門医 2名 • 日本アレルギー学会専門医 (内科) 1名 • 日本リウマチ学会専門医 2名 • 日本周産期・新生児学会 5名 • 日本小児神経学会専門医 2名
<p>病床数・患者数</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 病院病床数 560床 • 1日平均外来患者数 1,411人 • 総合診療科 (内科と併せて) 162床 <ul style="list-style-type: none"> のべ初診外来患者数 約590名/月 のべ内科系入院患者総数 約5,790名/月 • 内科 162床 • 小児科 92床 (NICU 20床、GCU 22床) <ul style="list-style-type: none"> のべ外来患者数 約1,880名/月
<p>施設の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 姫路赤十字病院は、播磨姫路医療圏 (医療人口 58万人) の中核総合病院として、高度急性期、急性期、高度医療を担っています。 • 集中治療室を整備 (周産期 MFICU、新生児期 NICU、成人期 ICU) して、全身管理を行っています。 • 総合診療科Ⅱ：総合診療専門研修指導医 8名、総合内科専門医 15名在籍しており、初診外来にて総合内科診療を行い、救急診療も積極的に対応しています • 内科：総合内科専門医に加えて、消化器、肝臓、血液・腫瘍、呼吸器、腎臓、膠原病、糖尿病、循環器領域それぞれに内科 Subspecialty 専門医が在籍しています。臓器枠を越えた横断的症例検討会や消化器・肝胆膵・呼吸器・循環器領域の内科・外科共同症例検討会を定期開催して、診療の質向上を図っています。

	<ul style="list-style-type: none"> 小児科：播磨姫路医療圏の小児医療中核病院で、23名の医師が在籍し、ほとんどの小児疾患に対応しています。また、総合周産期母子医療センターとして、地域の周産期医療の中核を担っています。 総合母子医療センターとして、播磨姫路医療圏全域で唯一のセンターであり、24時間周産期救急診療を行っています。 整形外科：脊椎・関節疾患を中心に整形外科全般にわたって診療を行っています。特に脊椎、膝関節、股関節（乳児股関節疾患を含む）、骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、関節リウマチについては、専門外来を設けています。全脊柱のあらゆる疾患（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊椎・脊髄腫瘍など）の診断・治療を行っています。股関節では、全年齢で様々な股関節疾患に対して手術（人工股関節置換など）や装具療法を行っています。
--	---

清水赤十字病院：総合診療 I

医師・専門医数	<ul style="list-style-type: none"> 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医（1名） 日本内科学会総合内科専門医（1名） 日本消化器病学会専門医（2名） 日本消化器内視鏡学会指導医（1名） 専門医（1名） 社会医学系専門医・指導医（1名） 日本内科学会認定医（2名） 日本小児科学会専門医（1名）
病床数・患者数	<ul style="list-style-type: none"> 病床数： 一般 92床 外来患者数： 129.3名/日 入院患者数： 70.6名/日 人工透析ベッド： 17床
病院の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 赤十字精神のもとに、臨床医として必要な医療・介護・保険・福祉が一体となった地域包括型の医療を提供しています。 患者及び家族のニーズを身体・心理・社会的側面から理解し地域で暮らす生活者の健康管理者としての役割を担っています。 地域内で唯一の公的医療機関であり、一次救急はもとより二次救急医療機関としての役割を担っています。 小児から高齢者までの幅広い患者層をもち生活習慣病への予防を強化しています。 訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療他、在宅医療への提供を強化しています。 各事業所産業医の委嘱、学校医の委嘱を受けており健康診断等を通じ疾患と予防医療を関連付けて健康管理を図っています。 臨床研修医、医学生等の受入を積極的に行い教育研修体制も充実しています。

多可赤十字病院：総合診療 I

<p>医師・専門医数</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 総合診療専門研修指導医 2 名 • (プライマリ・ケア認定医 2 名) • 眼科専門医 1 名 • 泌尿器科専門医 1 名 • 外科専門医 1 名 • 整形外科専門医 1 名 • 内科認定医 1 名
<p>病床数・患者数</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 病院病床数 110 床 病床内訳：一般 36 床、地域包括ケア 18 床、回復期リハ 33 床、医療療養 23 床 • 総合診療科（内科と併せて）：病床に区別なし • 1 日平均外来患者数 130 人 のべ初診外来患者数 270 名/月 のべ内科系入院患者総数 2,300 名/月
<p>病院の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 多可赤十字病院は、長閑な山間農村に位置していますが、人口の高齢化に伴い、複合した疾患や介護・生活問題を同時に抱えている患者さんが少なくありません。そのため当院の医療方針を次のように定め、地域内の医院、介護施設、行政、社会福祉協議会などと日常的な連携を図り、地域の総合力を發揮して包括的な医療を推進しています。 • 医療・ケアの一体的提供により、「老後に至るまで住みなれた居宅・地域で安心して住み続けることができる」包括的な医療・ケアを担う • 地域完結医療・ケア体制の構築のために、近隣医療機関・介護施設等の総合力を發揮した医療・ケアを推進する。 • 院内各種専門職間で包括医療・ケアの共通認識を醸成し、入院から在宅療養に至るまで一貫した医療・ケアの提供を推進する <p>「地域（包括）医療は、住民生活に身近に関わりながら住民の生老病死とそれに伴う生活問題について、①医療を行い、②ケア（健康づくりも含めて）に関わる専門職・社会資源と連携・協働し、③生存の質を高めるための住民地自身の実践を育成・支援し、④そのことを通して地域づくりにも関わる医療でなければならない、と思っています。</p> <p>様々な専門職、施設、行政の役割などについての幅広い理解を有した専門医となるべく、当院ならではの有意義な研修を受けられることを期待します。</p>

名古屋第二赤十字病院 ： 総合診療 II

専門医・指導医数	・総合診療専門研修指導医5名
診療科・患者数	・総合内科：のべ外来患者数 753名／月、入院患者総数 50名／月
病院の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市東部に位置する高度急性期病院であり、3次救命救急センター、へき地拠点病院、地域がん診療連携拠点病院等の指定を受け、広汎な初期から三次までの救急医療や高度医療を提供している。 ・総合内科においては、幅広い疾患に対する初診を中心とした外来診療、専門各科にまたがる問題を持つ患者に対する病棟診療、救急科と連携した初期救急などを提供している。

京都第一赤十字病院 ： 救急科

医師・専門医数	<p>救急科領域関連病院機能：三次救急医療施設（救命救急センター）、基幹災害医療センター、地域メディカルコントロール(MC)協議会中核施設、ドクターカー配置</p> <p>指導者：救急科専門医 9 名</p> <p>その他の診療科専門医（集中治療科、麻酔科、外科、整形外科、脳神経内科、脳神経外科、放射線科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科他）</p>
病床数・患者数	<p>救急車搬送件数： 7,500 件/年</p> <p>救急外来受診者数： 20,000 人/年</p> <p>重症救急入院患者数： 1,200 人/年</p>
病院の特徴	<p>研修部門：救急外来、集中治療室、救命救急病棟</p> <p>研修領域と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急室における救急外来診療（クリティカルケア・重症患者に対する診療含む） ・ 病院前救急医療（MC・ドクターカー） ・ 外科・整形外科・脳神経外科・小児科などの専門的救急手技や処置 ・ 重症患者に対する救急手技・処置（IVR・内視鏡・手術含む） ・ 集中治療室、救命救急センター病棟における入院診療と各専門診療科と連携した診療 ・ 救急医療の質の評価・安全管理 ・ 病院前救急医療（地域メディカルコントロール：MC） ・ 災害医療（DMAT、赤十字救護班、基幹災害医療センターとして指導など） ・ 救急医療と医事法制 <p>施設内研修の管理体制：教育研修推進室及び救急科専門研修管理委員会による</p>

研修について

1. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

1) 専門知識

総合診療の専門知識は以下の6領域で構成されます。

1. 地域住民が抱える健康問題を全人的に理解し、家族志向でコミュニケーションを重視した診療・ケアを提供する。
2. 多様な訴えに対する適切な臨床推論に基づく診断・治療や多様な健康問題に対する包括的なアプローチを行う。
3. 多様な健康問題に的確に対応する。
4. 地域包括ケアの担い手として積極的な役割を果たしつつ、全住民を対象とした保険・医療・介護・福祉事業への積極的に参画し、地域全体の健康向上に寄与する
5. 外来・救急・病棟・在宅と多様であり、各現場に応じた多様な対応能力を培う。
6. 知識を身に着け、重大ないし緊急な病態に注意した推論を実践する。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

総合診療の専門技能は以下の5領域で構成されます。

1. 一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な身体診察及び検査・治療手技
2. 患者中心の医療面接やコミュニケーション技法
3. 過不足なく適切な診療記録を記載し、患者の診療情報を速やかに情報提供できる能力
4. 地域ニーズに応じた技能の修練を行ったり、人的ネットワークを構築することができる能力
5. 基本的な医療機器や人材などの管理ができ、適切なリーダーシップの提供を通じてチームの力を最大限に発揮させる能力

3) 経験すべき疾患・病態

ショック	急性中毒	意識障害	疲労・全身倦怠感	心肺停止
呼吸困難	身体機能低下	不眠	食欲不振	体重減少・るいそう
体重増加肥満	浮腫	リンパ節腫脹	発疹	黄疸
発熱	認知脳の障害	頭痛	めまい	失神
言語障害	けいれん発作	視力障害・視野狭窄	目の充血	聴力障害・耳痛
鼻漏・鼻閉	鼻出血	嘔声	胸痛	動悸
咳・痰	咽頭痛	誤嚥	誤飲	嚥下困難

吐血・下血	嘔気・嘔吐	胸やけ	腹痛	便通異常
肛門会陰部痛	熱傷	外傷	褥瘡	背部痛
腰痛	関節痛	歩行障害	四肢のしびれ	肉眼的血尿
排尿障害（尿失禁・排尿困難）		乏尿・尿閉	多尿	不安
気分の障害（うつ）興奮		女性特有訴え・症状		成長・発達の障害

4) 2. 経験すべき一般的な疾患・病態

貧血	脳・脊髄血管障害	脳・脊髄外傷	変性疾患	脳炎・脊髄炎
一次性頭痛	湿疹・皮膚炎群	蕁麻疹	薬疹	皮膚感染症
骨折	関節・靭帯の損傷及び障害		骨粗鬆症	脊柱障害
心不全	狭心症・心筋梗塞	不整脈	動脈疾患	
静脈・リンパ管疾患		高血圧症	呼吸不全	呼吸器感染症
閉塞性・拘束性肺疾患		異常呼吸	胸膜・縦隔・横隔膜疾患	
食道・胃・十二指腸疾患		小腸・大腸疾患	胆嚢・胆管疾患	肝疾患
膵臓疾患	腹壁・腹膜疾患	腎不全	全身疾患による腎障害	
泌尿器科的腎・尿路疾患		妊婦・授乳婦・褥婦のケア		
女性生殖器およびその関連疾患		男性生殖器疾患	甲状腺疾患	糖代謝異常
脂質異常症	蛋白および核酸代謝異常		角結膜炎	中耳炎
急性・慢性副鼻腔炎		アレルギー性鼻炎	認知症	依存症
依存症（アルコール・ニコチン）		うつ病	不安障害	
身体症状症（身体表現性障害）		適応障害		不眠症
ウイルス感染症	細菌感染症	膠原病とその合併症		中毒
アナフィラキシー	熱傷	小児ウイルス感染	小児細菌感染症	小児喘息
小児虐待の評価	高齢者総合機能評価	老年症候群	維持治療機の悪性腫瘍	
緩和ケア				

4) 経験すべき診察・検査等

治療手技・小手術

簡単な切開・異物摘出・ドレナージ	止血・縫合法及び閉鎖療法
簡単な脱臼の整復、包帯・副木・ギプス法	局所麻酔（手指のブロック注射を含む）
トリガーポイント注射	関節注射（膝関節・肩関節等）
静脈ルート確保および輸液管理（IVHを含む）	経鼻胃管及びイレウス管の挿入と管理
導尿及び尿道留置カテーテル・膀胱瘻カテーテルの留置及び交換	
褥瘡に対する被覆治療及びデブリードマン	在宅酸素療法の導入と管理
人工呼吸器の導入と管理	
輸血法（血液型・交差適合試験の判定や在宅輸血のガイドラインを含む）	

各種ブロック注射（仙骨硬膜外ブロック・正中神経ブロック等）
小手術（局所麻酔下での簡単な切開・摘出・止血・縫合法滅菌・消毒法）
包帯・テーピング・副木・ギプス等による固定法 穿刺法（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺等）
鼻出血の一時的止血 耳垢除去、外耳道異物除去
咽喉頭異物の除去（間接喉頭鏡、上部消化管内視鏡などを使用）
睫毛抜去
※ 詳細は資料「研修目標及び研修の場」を参照

2. 医師に必要な資質・能力、倫理性、社会性などについて

総合診療専攻医は以下4項目の実践を目指して研修をおこないます。

1. 医師としての倫理観や説明責任
2. 安全管理（医療事故、感染症、廃棄物、放射線など）
3. 地域の優先度の高い健康関連問題を把握し、その解決に貢献できる。
4. 医療資源に乏しい地域にも、可能な限りの医療・ケアを率先して提供できる。

3. 専門研修の評価について

専門研修中の専攻医と指導医が相互評価を行う。

以下に、「振り返り」、「ポートフォリオ作成」、「研修目標と自己評価」の三点を説明します。

- 1) 定期的振り返り
- 2) 経験省察研修録作成
- 3) 研修目標と自己評価

短縮版臨床評価テスト（Mini-CEX）等を利用した診療場面の直接観察やケースに基づくディスカッション（Case-based discussion）を定期的実施する。

また、多職種による360度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する。

4. 修了判定について

3年間の研修期間における研修記録にもとづいて、知識・技能・態度並びに症例経験数などをPG統括責任者または専門研修連携施設担当者が専門研修プログラム管理委員会において評価し、専門研修PG統括責任者が修了の判定する。

5. 総合診療研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

(1)研修の休止が認められます。研修期間を延長せずに休止できる日数は、通算 6 か月までとします。

(ア) 病気の療養、(イ) 産前・産後休業、(ウ) 育児休業、(エ) 介護休業、(オ) その他

(2)次の 1 つに該当するときは、専門研修プログラムを移籍することができます。

(ア) 所属プログラムが廃止され、または認定を取消されたとき

(イ) 専攻医にやむを得ない理由があるとき

(3) 妊娠、出産後など短時間雇用の形態での研修が必要な場合は研修期間を延長する。

6. 総合診療専門研修指導医

本プログラムには、総合診療専門研修指導医が総計 11 名、具体的には姫路赤十字病院内科・総合診療科に 8 名、清水赤十字病院に 1 名、多可赤十字病院に 1 名、名古屋赤十字病院に 1 名います。

7. 専攻医の採用

採用方法

姫路赤十字病院総合診療専門研修プログラム管理委員会は、毎年 6 月から説明会等を行い、総合診療専攻 医を募集します。PG への応募者は、9 月 30 日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『姫路赤十字病総合診療専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。

申請書は、

(1) 姫路赤十字病院 内科・総合診療科の website よりダウンロード

(<http://www.himeji.jrc.or.jp/>)

(2) 電話で問い合わせ (TEL : 079-294-2251 人事課)

(3) e-mail で問い合わせ (e-mail : kensyu@himeji.jrc.or.jp)

のいずれの方法でも入手可能です。

原則として、書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。

応募者および選考結果については、姫路赤十字病院 総合診療専門研修プログラ

△管理委員会において報告します。

(いずれも本年度の期日は未定です)